

◇信仰と生活委員会報告

(3月5日)

会の始めに大畑主教より「宣教の働きは思い通り進まず、行きつ戻りつしながら進んでいくが、そこに必ずイエスが共にいてくださることを忘れずに歩んでいきたい」というメッセージをいただいた。

また委員会の今後のあり方として「東京教区が出した宣教方針『いと小さき者と共に生きる』と聖公会の宣教の五指標を踏まえて、委員会の働きを進めていただきたいが、課題は山のようにあり、その中で最優先課題は何か、それをどうやって進めて行くかを考えていただきたい」と語った。

その後、自由に委員会のあり方について討議、「真面目なことだけでなく、もっと楽しいイベントをしたい」「各教会で困っていることなどをリサーチして、それを解決する手助けができればいいのではないか」「子ども、中高生、青年、壮年と人生の移ろいに応じて、その信仰

生活の現場に結びついたことを考える」「今年は戦後70年であるための学びをしたらどうか」などの意見が出され、継続審議となった。

*報告事項

- ・5月16日(土)に日曜学校スタッフ連絡会主催の「子どもフェスタ」を聖三一教会で行う。(次回4月17日)

◇常置委員会報告(3月9日)

会のはじめに諸聖徒幼稚園閉園にともない、牧師・担当者からのお話を伺った。

教務主事報告

- ・4月よりヤマト運輸のメール便廃止にともない、教区郵便物の対応について

財務主事報告

- ・2月末の会計収支報告

宣教主事報告

- ・各委員会についての報告
- ・教区ホームページをリニューアルするため作業中
- ・第49回日韓の歴史を学ぶ会を3月22日(日)15時から聖バルナバ教会で開催

・4月25日(土)13時30分から「拡

大委員長連絡会」を開催

・東京教区の代祷・信施奉献先に「大韓聖公会釜山教区済州教会(11月)」新設に対し、朴主教より御礼の連絡があった。

協議事項

- ・3月29日の合同堅信式について
- ・教区会提出の議案について確認
- ・退職司祭へ支払うの退職金について
- ・人事について

・4月25日(土)13時30分から「拡

◇【本日開催】第6回東京教区青年会

青年会 3月28日(土)10時半〜12時 聖パウロ教会

◇東京教区の「使命」について語る懇談会
*第3回
3月28日(土) 10時半〜12時
聖パウロ教会

当日参加 大歓迎です!

対象年齢: 18歳〜35歳

日時: 3月22日(日) 17時

場所: 聖アンデレ主教座聖堂

参加費: 500円

問合せ: 03(3431)2882

(聖アンデレ主教座聖堂)

e-mail: seinenkai.tko@nssk.org

詳細は、各教会の青年会ポスターを参照下さい。

今週・来週の予定

3月22日〜4月4日

- 22(日) 大斎節第5主日
諸聖徒幼稚園閉園感謝礼拝
城南G教会協議会
下町G教会協議会
山手G教会協議会
- 25(水) 資料保全委員会
人権委員会
- 27(金) 東日本大震災支援対策室
- 28(土) 東京教区の「使命」について語る懇談会(聖パウロ教会・真光教会)
- 29(日) 復活前主日
合同堅信式
- 4月
- 2(木) 聖油聖別の聖餐式
(聖アンデレ主教座聖堂)
- 3(金) 受苦日(聖アンデレ主教座聖堂)

*第4回

3月28日(土) 14時~15時半

真光教会

◇受苦日礼拝

日時: 4月3日(金) 12時

場所: 聖アンデレ主教座聖堂
司式: 大森明彦司祭
説教: 金大原司祭

▽U26アクションプラン企画

合同聖書研究会

日時: 4月12日(日) 15時~

場所: 聖アンデレ教会

対象: 18~26歳

問合せ先: b.l.b.b.34@gmail.com

2月に行われた第4回U26集会のプログラムの一環で、横浜教区と合同聖書研究会を行います。

U26に関する詳細は『活動発信センター』(http://nssk-u26.blogspot.jp/)をご覧ください。
(青年担当 新田宛)

◆としえの平安

3月14日 月岡久美子(82)

聖ルカ

3月17日 菊池 正一(92)

聖ペテロ

▽奉献先紹介

「地域と共に歩むことを願い」

在日の日本人の生き生きと

・特定非営利活動法人聖公会

生野センター

1992年に開設されて早

23年がたちました。

聖公会生野センターはNP

O法人になって10年を経まし

た。現在移転後8年がたち毎

週在日の高齢者、地域の障が

い者、韓国語教室に通う人々

と「種々雑多な人たち」の集

う場になっています。セン

ターに来る人はそれぞれ「重

荷」を背負っている人たちが

多く私たちは寄りそうことを

大切にしていきます。

生野地域で共に生きるとい

うことは在日韓国朝鮮人と日

本人が共に生きることでもあ

ります。そしてそれはすべて

の人が尊重されることにつな

がります。

生野地域は戦前からの在日

に加えて80年代後半から韓国

から新たに多くの人が渡日し

てきました。それに加えて中

国の朝鮮族の人たちも増加し

ています。今や大きなコリア

ンコミュニティになりつつあ

ります。もちろんアジア各国

を始めとしていろいろな外国

人も共存しています。ここ数

年はヘイトスピーチが生野

地域にも吹き荒れましたが多

くの人と共に闘い、現在は生

野地域では鳴りを潜めていま

す。右傾化の進む中で「共に

在ること」を大切にしてこれ

からも働いて行きたいと願っ

ています。

総主事 呉光現(オ・クアン

ヒョン)

・女性の家HELP

女性の家HELPは、日本

キリスト教婦人矯風会の創立

100周年記念に1986年に設

立された日本で草分けの女性

と母子のシェルターです。緊

急避難センターとして、国籍・

宗教・在留資格の有無を問わ

ず、シェルターと電話相談を

行っています。設立時から非

正規在留(オーバーステイ・

無国籍)の女性と母子を受け

入れてきました。今夜、安全

に滞在する場所のない方に居

場所を提供し、次の新しい一

足を踏み出す準備のお手伝い

をしています。

設立以来2013年3月ま

でに大人4808人、子ども

1271人を受け入れまし

た。日本人:大人2019人、

子ども626人、外国人:大

人2789人、子ども645

人です。設立当初は、外国人

入所者の90%が人身取引被害

者で、ほとんどが帰国しまし

た。1990年代後半から外

国人の入所理由が日本人配偶

者の暴力へ変化し、日本に定

住を希望するケースが増えま

した。日本人は配偶者の暴力、居所なしが入所理由の大半です。特に最近10代の入所者が増え、現行制度の中では自立に向けた支援が難しいケースが何件もありました。そのような法の狭間にいる日本人や外国人を、民間機関であるHELPが独自に支援せざるを得ないこともあります。制度が整えられるように政府に提言することもミッションです。